



< 校 訓 > 相共に 自ら伸びる 有中生
 < 学校教育目標 > 心豊かで、心身ともにたくましく生きる生徒の育成
 < めざす生徒像 > 知性を磨く 心を磨く 体を鍛える

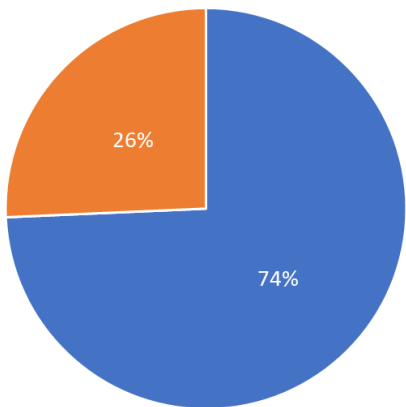
発 行 者
 南島原市立有家中学校
 校 長 岩永 秀久

アンケート協力、ありがとうございます。

10月27日(金)に開催した「合唱コンクール」について、保護者の方にアンケートをお願いしたところ、109件の回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

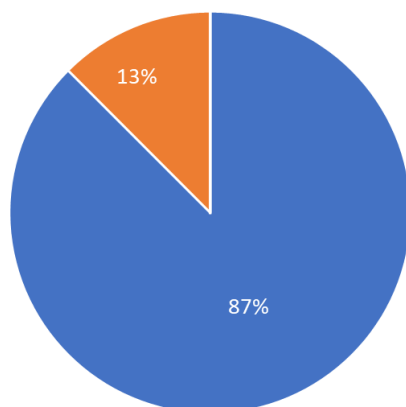
生徒にとっても、私たちの職員にとっても励みとなる感想やメッセージが数多く寄せられ、来場いただいたこと、ご家庭での励ましに感謝するところです。みんなで、感染拡大を乗り越え、掴んだ「有中の絆」です。三年生の勇姿は見納めとなりましたが、次年度の合唱コンクールは、ぜひ誘い合わせのうえ、ご来場ください。

1 合唱コンクールを参観しましたか



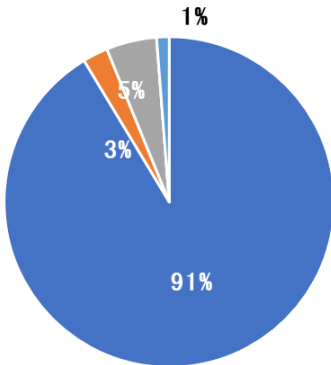
■ 参観した ■ 参観しなかった

2 合唱コンクールを参観してどうでしたか



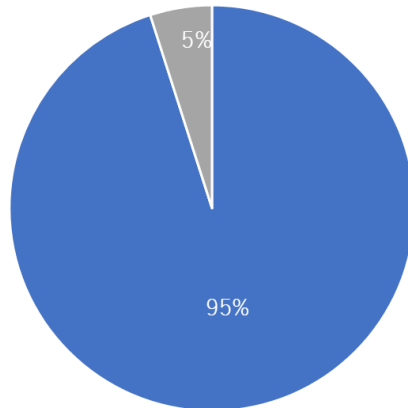
■ とても良かった ■ 良かった ■ やや物足りなかった ■ 物足りなかった

3 合唱を参観された時間をお聞かせください。



■ 全部鑑賞(開閉会式、吹奏楽部演奏、3年全員合唱を含む)
 ■ 全学年の合唱のみ
 ■ 子どもの学年のみ
 ■ 子どもの学級のみ
 ■ その他

4 会場についてお聞かせください



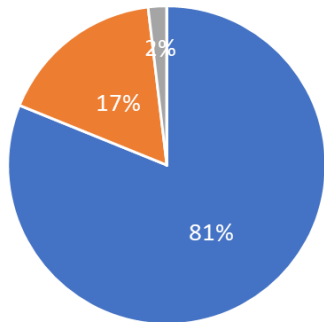
■ コレジヨホールが良い ■ 学校の体育館が良い ■ どちらとも言えない



<コレジヨホールが良い>

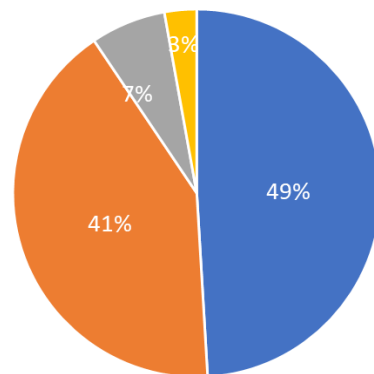
- 体育館では見えにくいですが、コレジヨホールは、席の段差があり見やすい
- 音の響き、また鑑賞をする面で、いろんな角度から鑑賞できることなど
- 声の反響も良く、一人一人の顔がハッキリ見えて感動的でした
- ホールで歌う事を経験するのもいいと思うので
- 暗転や照明調節ができたり、ピアノ音や声の響き方がいいと思いました

8 合唱コンクールは、生徒にとって必要な行事であると思いますか



- そう思う
- どちらかと言えばそう思う
- どちらかと言えばそう思わない
- そう思わない

9 合唱コンクールが家庭で話題になりましたか



- 頻繁に話題となった
- 時々話題になった
- あまり話題にならなかった
- まったく話題にならなかった

<素晴らしい感想を共有させてください。生徒の励みになります。>

- ・学年のそれぞれの歌に対する思いを感じさせてもらいとても感動しました。皆さんの毎日の練習の成果が良く出ていたと思います。貴重な時間をありがとうございました。
- ・学年ごとに上達、成長が見られ、よい歌声になって感動しました。楽しい演出もあり、楽しめてくれました。来年もまた楽しみです。
- ・年々上手になっていく合唱やみんなで頑張って練習して挑んでる事に涙が出ました！すごくよかったです。
- ・合唱だけでなく、聴く時の態度も流石で、有中生が一体となっているのを感じ感動しました。
- ・子どもが楽しかったと話していた。今年は仕事の都合で行けなかったが来年は観に行きたいと思っている。
- ・各クラス、合唱コンクールに向けて頑張ってきた様子がとてもよく伝わり、中学生の一生懸命さが合唱は本当に心に響きます！毎年楽しみです。今年は制限なく鑑賞できて本当に嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・はじめて拝見致しましたが感動しました。子供がはじめて、見に来てと言ってくれたので嬉しく思いました。
- ・初めての合唱コンクールを見にいきましたが、子供達の合唱の上手さ、指揮者なども皆違って、ビックリしました。吹奏楽部に合わせて、先生達の出演も楽しませてもらい、感動笑いありでよかったです。

なりたい自分探しの旅へ

一年生が「総合的な学習の時間」を利用し、「キャリア教育」をスタートしました。キャリア教育は、将来に向け、なりたい自分探しの旅といったところでしょうか。十一月一日(水)にイオン有家店の松尾 聡 店長を招いて、講話をいただきました。

東日本大震災から学んだこと(石巻市)、有家店が売上を伸ばすために工夫しているところ、取り組んでいる地域貢献など、分かりやすくご教示いただきました。一年生の生徒からは、質問が多く、時間内に収まらないぐらいでした。

「皆さんに伝えたいこと」

- ◆ 自分から挨拶をする
- ・ 第一印象が決まる
- ・ 大事なものは、コミュニケーション
- ◆ メモを取る癖をつける
- ・ メモを取らないと、覚えられない
- ◆ 感謝の気持ちを示す
- ・ 思っているだけでは、ダメ
- ・ 表情や態度、言葉で表す

成功の反対は、挑戦しないこと

